

近代砂防の先駆け

雲原砂防施設群 (国登録記念物(遺跡)、近代化産業遺産)

雲原砂防は、砂防の理想とする砂防施設の配置や河川の線形改良などの計画をそのまま実施した日本で初めての工事です。雲原川に注ぐ三岳川、深山川及び横尾川とその支川に、効果的に砂防施設(えん堤(砂防ダム)、床固、護岸)を設けて土砂の発生を抑制し、『砂防施設群』の名前のとおり、施設全てが機能を発揮して土砂災害から流域の安全を守っています。

島瀬谷川(昭和16年整備)

曲がった川を線形改良し、直線化された流路工の整備当時の姿をそのまま府道山東大江線から望むことが出来ます。



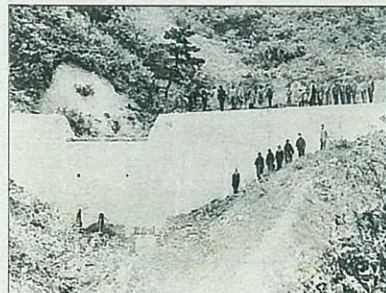
三岳川第28号 床固工

雲原砂防施設群の中で、最も早く着手された施設といわれており、床固工の基本形となっています。床固工は地形条件や第二次世界大戦のセメントなどの物資不足などから、年代に合わせてその形を変化させています。



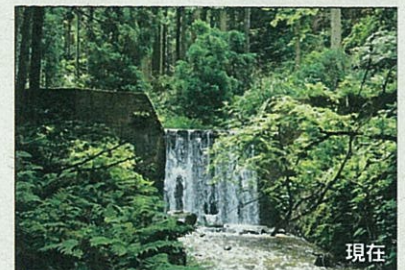
上三岳川第1号えん堤(昭和15年整備)

高さ7.4m、幅40.3mで雲原砂防施設群の中でも最大級の規模。完成当時の写真で、完成を祝って関係者で撮影されたものと思われます。



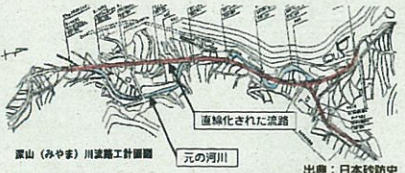
長曾谷川第1号えん堤

長曾谷川は深山川の支流で、写真のえん堤は昭和15年に撮影されたものです。えん堤で山すそから流れ出る土砂を抑え、下流域の安全を静かに守っています。



河川の線形改良(深山川)

流路工として整備するまでの河川は屈曲しており、直線化するためには隣接する農地所有者の理解及び協力が必要でしたが、関係者全員の協力が得られ工事が円滑に進みました。



砂防記念碑

砂防記念碑は雲原砂防施設群の完成を記念し、当時の村長で多大な功績を残した西原亀三氏によって建立されました。



記念碑の建立されているこの土地も曲がった川の形状を改良した際に発生した、昔は河川だった土地です。